

# Ⅱ 「学びの変革」の更なる加速に向けて

## 「個別最適な学び」の推進

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じており、学校・教育・学びの「アップデート」が必要となっている。

本県においては、令和元年度から「個別最適な学び」に関する調査研究を実施し、令和2年3月には、これからの学校や学びはどうあるべきかという視点に基づき、「個別最適な学び」の実現に必要な観点などについて、「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」（以下「提案」という。）として整理した。さらに、令和2年度から2年間、「個別最適な学び」に関する実証研究として、県内4地域の指定校において各学校の教育目標の実現に向け、子供たちの実態（学習進度や能力、関心等）に応じた多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動に取り組み、令和4年度にはその実践を県内へ普及するため、教職員研修等を実施し、推進を図っている。

### 1 「個別最適な学び」について

#### （1）「個別最適な学び」が求められる背景

本県では、グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指して、「広島版『学びの変革』アクション・プラン（平成26年12月）」に基づき、各学校において、全ての児童生徒の主体的な学びを促す教育活動に取り組んできた。これまでの各学校の取組によって、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」児童生徒の割合が増加し、学習の仕方が改善されているなどの成果が見られている。一方で、「広島県『基礎・基本』定着状況調査（児童生徒質問紙調査）」の結果によると、「主体的な学び」に向かっていない児童生徒が1割程度みられ、さらに、主体的な学びの定着度合い（＝課題発見・解決学習に関する質問項目に対する肯定的な回答数）の減少に連動して、自己肯定感や学ぶ楽しさ・できる喜びが低下している状況がみられており、様々な要因から授業に参加できていない、あるいは、意欲的に学習できていない児童生徒がいることから、一斉指導を前提としたカリキュラムだけでは主体的に学ぶことが難しい児童生徒がいると捉えている。

学習指導要領（平成29年告示）の総則「第4 児童（生徒）の発達への支援」においても、「児童（生徒）が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童（生徒）や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童（生徒）の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的

な学習などの学習活動を取り入れること（中略）」と「個に応じた指導」の充実に図ることが示されている。

また、令和3年1月に中央教育審議会から答申された「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている中、子供たちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子供たちの資質・能力を育成することが求められている。

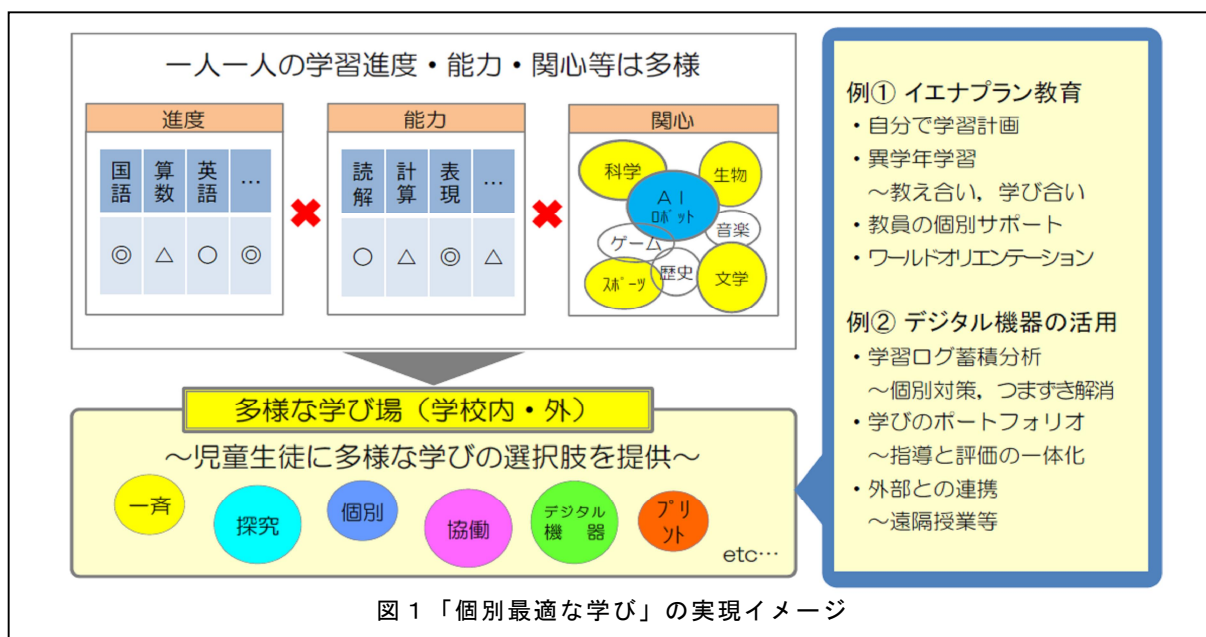
参考HP：文部科学省

「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm)

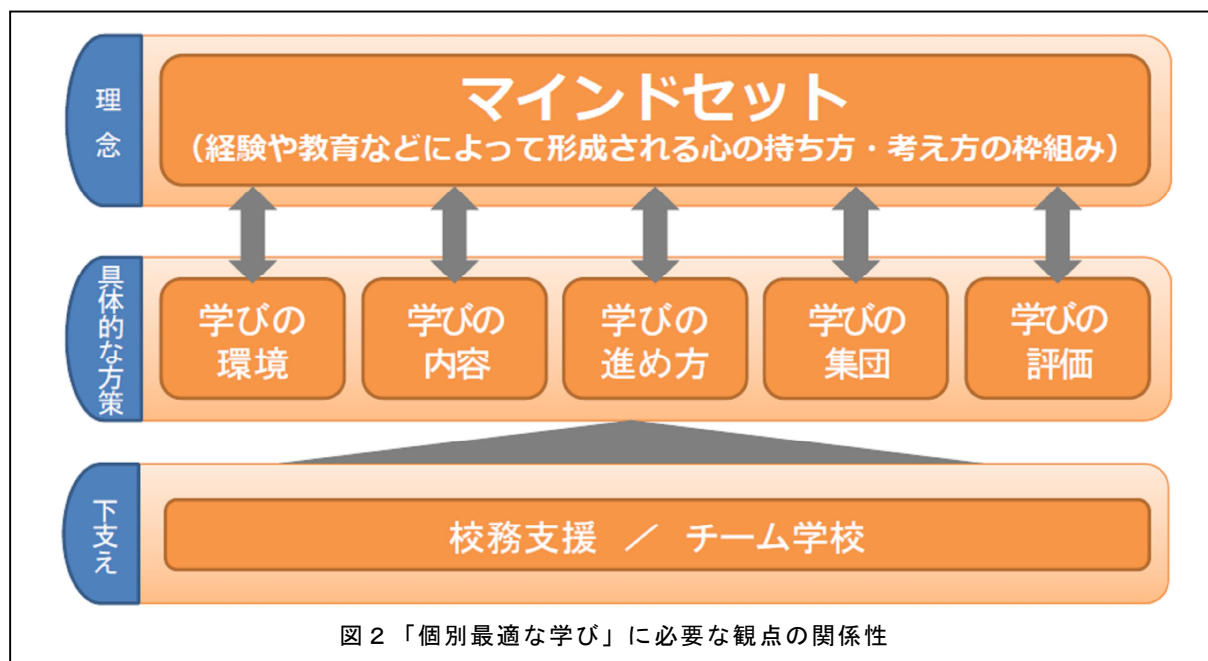
## （２）「個別最適な学び」を推進していくために

「個別最適な学び」とは、児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じた、それぞれに最適な学びのことであり、児童生徒一人一人に多様な学びの選択肢を提供することで、基盤的な学力の習得も含め、主体的に学び続けることができる状態を目指している。（図1）



「個別最適な学び」を実践していくためには、まず、全ての教職員が学習者基點に立ち、対話を通して、各学校の教育目標に基づいた目指す児童生徒の姿を具体化して共有することが必要である。さらに、各学校が目指す児童生徒の姿に向け、どのように教育活動を進めていくのかについて、「個別最適な学び」に必要な観点（学びの環境、学びの内容、学びの進め方、学びの集団、学びの評価など）を踏まえて、これまでの一斉指導を前提とした指導形態に捉われないことなく、子供たちの多様性を尊重し、柔軟に検討していくことが必要である。（図2）

多様な学びの選択肢を提供する方法としては、例えば、イェナプラン教育において見られる自分で学習計画を立てることや、デジタル機器を活用して学習ログを蓄積し、個々の児童生徒の状況を把握し、つまずきの解消を図ることなどが考えられる。



### ＜福山市立常石ともに学園（イェナプラン教育校として設置）における取組＞

福山市では、再編後の常石小学校の施設を活用し、令和4年4月にイェナプラン教育校を設置しており、第1学年から第3学年、第4学年から第6学年の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行っている。

各教科の基礎的な内容について、自分で選択したり教師から示されたりした課題に取り組む「ブロックアワー」では、子供たちは、自分で時間割を作り、一人で取り組んだり異年齢で考え合ったりしながら学んでいる。教科の学習で学んだ知識と関連付けながら協働的に学ぶ「ワールドオリエンテーション」では、子供たちが自ら生きた本物の題材から問いを見出し、探究している。異年齢の集団であることで、多様な見方・考え方、感じ方、経験や知識を交流しながら学ぶことができる。



ブロックアワーにおける児童の学び

参考HP：福山市立常石ともに学園ホームページ  
<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-tsuneishi/>



## 2 具体的な取組事例

### (1) 「個別最適な学び」に関する実証研究指定校等における取組

本県では、令和2年度から2年間、県内4地域で実施した「個別最適な学び」に関する実証研究指定校及び県内で「個別最適な学び」に取り組んでいる実践校の取組の概要を県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」において紹介している。実証研究指定校においては、学校教育目標の実現に向け、多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動を推進しており、結果児童生徒の92%に資質能力の伸びが見られるなどの教育効果が得られている。

なお、実践事例や教育効果等の詳細について、下記リンク先ページ「個別の状況の応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」（図3-1～5）にて紹介しているので、ぜひ御覧いただきたい。

参考HP：ホットライン教育ひろしま

「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/kobetu-teian.html>



## 全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて

印刷用ページを表示する

### 個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案 ～Society5.0を見据えた「学びの変革」のアップデート～

本県では、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、個別最適な学びに関する調査研究を進め、令和2年3月に「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」として整理するとともに、同年4月から、県内4地域において「個別最適な学びに関する実証研究」に取り組んできました。（2か年事業）

#### ① 個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案（R2年3月）

#### ② 実証研究及び教育効果の検証結果の概要（R3年3月）

【具体的な実践事例】

学校名	取組概要	実践事例
廿日市市立宮園小学校	単元内自由進度学習	① 実践事例報告（1）
江田島市立三高小学校	イェナプランを参考にした自立・協働学習	② 実践事例報告（2）
三次市立みらさか学園	単元別プロジェクト学習	③ 実践事例報告（3）
福山市立福山中学校	興味・関心に応じたMY探究	④ 実践事例報告（4）

図3-1 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」



## 個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気付き

**Goal** 全ての児童生徒の「**主体的な学び**」の実現

**手法** 子供の实態に応じた多様な“**選択肢**”と“**自己決定**”を意識した教育活動

**Point 1** 教職員の大切にしたい心の持ち方・考え方  
(次のようなマインドセットを意識)

- 学びの主体は子供 (⇒ 支え励まそう)
- 子供は力を持っている (⇒ 委ねよう)
- 子供には多様性がある (⇒ 尊重しよう)

**Point 2** 子供の实態(学習進度・能力・関心等)に応じた多様な選択肢と自己決定場面を設定

実証研究校での目指す姿

子供

- 自分から進んで学習しているか？  
・自ら学習方法や内容を選択し、自分のペースで学んでいるか？  
・分からない事を学び合いの中で自分たちで解決しているか？
- 自分の学びを本気で振り返っているか？

教師

- ◆ 子供の实態を踏まえた教材研究ができているか？
- ◆ 一人一人の学びを見取っているか？
- ◆ 個に応じた支援ができていますか？

実証研究校での検証結果 (教育効果)

- ◆ 子供たちの資質・能力が向上した！  
～コンピテンシーが伸びた児童生徒割合:約92%
- ◆ 自己決定すれば実行力・自己効力が伸びた！  
～決断力と実行力の伸びの相関:約67%  
～決断力と自己効力の伸びの相関:約75%
- ◆ 子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった！  
～各アンケートでの肯定的回答  
主体性:約94%, 理解度:約91%, 満足度:約93%

図 3 - 2 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

### 【令和2年度の取組】実証研究指定校 実践事例報告

<p style="text-align: center;">廿日市市立宮園小学校</p> <p style="text-align: center;">【単元内自由進度学習】</p>	<p style="text-align: center;">江田島市立三高小学校</p> <p style="text-align: center;">【イエナプランを参考にした 自立・協働学習】</p>
<p style="text-align: center;">三次市立みらさか学園</p> <p style="text-align: center;">【単元別プロジェクト学習】</p>	<p style="text-align: center;">福山市立福山中学校</p> <p style="text-align: center;">【興味・関心に応じたMY探究】</p>

図 3 - 3 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

### 【令和3年度の取組】実証研究指定校 実践事例動画

<p style="text-align: center;">廿日市市立宮園小学校</p> <p style="text-align: center;">【自由進度学習】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>3年 算数・理科</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>5年 算数・社会</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>4年 算数</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>6年 算数・理科</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">廿日市市立金剛寺小学校</p> <p style="text-align: center;">【ICT活用による、児童が学び合い、 探究し続ける授業】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>5年 体育</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>6年 国語・算数</p> </div> </div>
--	--

【令和3年度の取組】実証研究指定校 実践事例動画












<p>江田島市立三高小学校</p> <p>【イェナプランを参考にした自立・協働学習】</p> <p>3～6年 総合</p> 	<p>福山市立福山中学校</p> <p>【興味・関心に応じたMY探究】</p> <p>1～3年 総合</p> 						
<p>三次市立みらさか学園</p> <p>【単元別プロジェクト学習】</p> <table border="0"> <tr> <td>小学6年 国語</td> <td></td> <td>中学1年 技術</td> <td></td> <td>中学2年 技術</td> <td></td> </tr> </table>		小学6年 国語		中学1年 技術		中学2年 技術	
小学6年 国語		中学1年 技術		中学2年 技術			

図3-4 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和4年度の取組】「個別最適な学び」に取り組む実践校 実践事例動画





<p>廿日市市立金剛寺小学校</p> <p>【マイプラン学習】</p> <p>5年 算数</p> 	<p>三次市立みらさか学園</p> <p>【単元別プロジェクト学習】</p> <p>小学6年 中学2年 社会</p> 
<p>三原市立久井小学校</p> <p>【単元内自由進度学習】</p> <p>6年 理科</p> 	<p>廿日市市立宮園小学校</p> <p>【自由進度学習】</p> <p>自由進度学習 Q&amp;A</p> 

図3-5 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

自由進度学習に関してよくある質問について解説しています！

<p>こんな質問、よく受けています！</p> <p>自由進度学習を進めていて、本当に学力は付くのでしょうか？ そこが不安で、なかなか取り組みません。</p> <p>「自立した学び手」を育成しようとしている宮園小学校では、子供たちの自己調整力が高まってきています。 6年生の姿をご覧ください。</p> 	<p>6年算数「図形の拡大と縮小」 理科「植物のからだのはたらき」</p> <table border="1"> <tr> <th>自由進度学習</th> <th>算数「図形の拡大と縮小」</th> <th>理科「植物のからだのはたらき」</th> </tr> <tr> <td>学習計画表</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>算数9時間、理科8時間の学びを学習計画表に基づき自立的に進めていきます。</p>	自由進度学習	算数「図形の拡大と縮小」	理科「植物のからだのはたらき」	学習計画表			<p>条件を変えて実験した結果を個々に記録しています。</p> <p>実験結果をこのように可視化することで、同じ日に実験しなくても、実験結果を友達と比較しながら考えることが可能になります。</p>  
自由進度学習	算数「図形の拡大と縮小」	理科「植物のからだのはたらき」						
学習計画表								

自由進度学習に関してよくある質問を、廿日市市立宮園小学校の実践を基に解説した動画を掲載しています。実践してみたいがやり方が分からない、不安があるという方はぜひ御覧ください。

【このような質問に答えています】

- ・自由進度学習を進めていて、本当に学力は付くのでしょうか？
- ・時間内に終わらない子が出てくるのではないですか？
- ・一人一人の学びをどのように見取るのでしょうか？
- ・自由進度学習は、低学年でもできるのでしょうか？

## (2) 不登校等児童生徒支援指定校における取組

「令和元年度の広島県における生徒指導上の諸課題の現状について」によると、広島県内の不登校の児童生徒数は 5,276 人であり、前年度と比較すると 565 人（12.0%）増加している。校種別に見てみると、小学校では4年連続、中学校では6年連続、高等学校では3年連続で増加しており、不登校、不登校傾向及び特別な支援が必要と考えられる児童生徒（以下「不登校等児童生徒」という。）への支援は喫緊の課題である。

不登校は、「特定の子供に特有の問題があることによって起こることではなく、どの子供にも起こり得ること」として捉え、さらに、不登校の解決には、様々な背景や要因を分析し、総合的に取り組む必要がある、「不登校への取組が、学校としての教育力を高める」という基本認識を持ち、学習の基礎・基本の定着、生活習慣の改善、望ましい人間関係づくりなど組織的に取り組むことが大切である。

また、文部科学省初等中等教育局長「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）令和元年 10 月 25 日」には、不登校児童生徒への支援の基本的な考え方として、「『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。」が示されている。

本県においては、令和元年度から県内 11 校を指定し、校内において不登校等児童生徒のニーズに応じた支援を行うスペシャルサポートルーム（以下「SSR」という。）を設置した。さらに、SSRに専属の教育相談コーディネータを配置し、不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援及び不登校の未然防止の強化・充実を図り、その成果を県内全体に広める取組を進めている。

### <取組のポイント>

- ◆ 学校全体で組織的に取り組むための体制整備
- ◆ アセスメントの結果を踏まえた要因の分析
- ◆ SSRの環境整備と学習支援
  - ・「居場所」として
  - ・「成長する場」として

### ア 学校全体で組織的に取り組むための体制整備

不登校等児童生徒支援指定校においては、週に1回、不登校等児童生徒支援会議を開催し、校長のリーダーシップのもと、教育相談コーディネータが中心となり、不登校等児童生徒への支援方針の立案、修正を行っている。その際、個別の支援計画を作成し活用したり、関係児童生徒の状況と今後の支援方針を一覧表にまとめて明確化したりすることが有効で具体的な支援を継続することにつながっている。

また、会議には、専門的な視点からのア



図4 「SSRでの活動の発信と共有」

セスメントが必要な場合があり、スクールカウンセラーと児童生徒・保護者の面談やスクールソーシャルワーカーによる関係機関等との連携が重要となる。

さらに、学校全体で取組を進めるための情報共有として、例えば、共有したい情報は校内サーバの共有フォルダに保存していつでも確認できるようにしたり、SSRでの活動を文書で発信したりするなど、情報を「見える化」をしていくことが大切である。（図4）

#### イ アセスメントの結果を踏まえた要因の分析

いじめや不登校など様々な課題や背景を抱えた児童生徒間の人間関係は、教職員にとって分かりにくくなってきている。また、学級経営において、児童生徒がどのような課題を抱えているのか、学級集団はどのような状態にあるのか等を正確に把握して取組を進めることが重要であるが、日常の観察や面談で得られた情報だけでは実態が見えにくくなってきている。

このような状況の中、日常の観察や面談で得られた情報に加えて、アンケート調査等の客観的なデータを活用することが有効である。実施する際には、チームとしての実施体制を整備するとともに、一人一人の児童生徒や学級集団の状況を、表出している事象だけではなく、その要因を多面的・多角的に分析し、探っていくことが大切である。

#### ウ SSRの環境整備と学習支援

SSRにおける様々な取組を通して児童生徒に身に付けさせたい力は、次の二つの力であると考えている。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆自分の強みを生かそうとする力</li><li>◆困難な場面で相談し、解決に向けて行動する力</li></ul> |
|--|

児童生徒がこのような力を身に付けていくためには、SSRが児童生徒にとって安心感のある、自らの意思で取り組むことを決定できるような場所であることが必要である。また、自分の特性を知り、困ったことがあれば助けを求め、得意な力を生かしていけるよう成長する場となるよう支援を行う必要がある。

#### (ア)「居場所づくり」としての取組

SSRが、「苦手な刺激を減らせる」、「学びたい内容を学びたい方法で学べる」、「登校できる時はいつでも行ける」、「困った時はいつでも相談できる」といった、児童生徒の特性上苦手で取り組むのが無理なことを強要されず、できることはやらせてもらえる安心感のある居場所となる取組が大切である。

#### (イ)「成長する場づくり」としての取組

SSRにおける「成長する場づくり」として必要となるのは、一人一人の児童生徒の実態を踏まえた長期目標の設定と、その長期目標に向けた短期目標をスモールステップで設定することである。また、設定した目標については、個別の支援計画等に記載し、当該児童生徒・保護者と共有し、合意形成を図ることが重要である。



＜苦手な刺激を減らす＞



カーペットやソファなどを設置したり、布で天井をおおったりして教室とは違った雰囲気を創り出しています。



＜自分の居場所としての実感をもたせる＞



児童生徒の作品や学習のまとめをSSR内に掲示し、自分たちの居場所である実感を持たせています。

＜児童生徒の興味関心を生かした学び＞

SSR個展について  
SSRでは、自己表現の場として日頃の活動の成果をまとめた個展を開催することになりました。先生方には、教室にまでさりげない誘いを頂ければと思います。  
日時：令和元年12月17日(月)～19日(水)  
場所：SSR教室  
内容：個人の作品の展示  
※お茶を準備しています。  
ぜひおいでください。



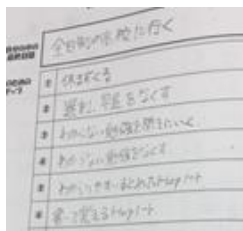
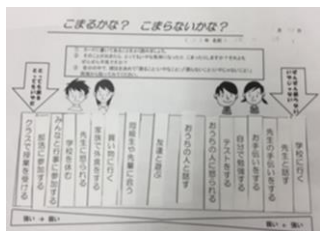
自分たちが興味関心のあることについて、それぞれが調べ、自分なりの工夫をしてみとめました。また、SSR個展として、先生方を招待し、調べたことの発表会を開催しました。教員からは、たくさんの「いいね」の評価をもらいました。

＜学ぶ内容、場所、方法などを自分で決定する＞



1日の時間割を自分で決定する計画表を準備したり、個別の学習スペースやグループで学習できる場を整備したりすることにより、児童生徒が学ぶ内容、場所、方法などを選択して学ぶことができるようにしています。

＜長期目標・短期目標の設定＞



自分の得意なことや苦手なことを整理し、自分理解を深めます。

＜振り返りと教職員からの声かけ＞

実際の下校時刻	15時 23分	14時 35分	10時 45分
1日の感想	計算を少しいじりました	こつこつ計算を5分おとした	少し計算を好きになりました
学校から	10分おつ	10分おつ	10分おつ

児童生徒の振り返りに学校からコメントを返すことで、達成感を持ち、成長を実感することにつながっています。

＜児童生徒相互に学び合う場の設定＞



児童生徒相互の教え合いの活動や関わり合い・協力が必要となる体験活動などを取り入れ、相互に認め合うことができるよりよい人間関係を築いています。

また、体験活動における様々な体験は、自分が何に興味・関心があるのかに気づき、学びを広げていくきっかけとしています。

### (3) 東大 ROCKET in 広島の実施

「東大 ROCKET in 広島」は、県教育委員会が東京大学先端科学技術研究センターと連携し、不登校をはじめとする学校における集団での学習になじめない児童生徒に対して、体験を通して学んだことと既存の知識や技能とを結び付ける学びの場を提供することで、社会とのつながりを促し、知的好奇心を喚起し、学び続ける力の育成を目指した教育プログラム（活動から学ぶ体験型プログラム）である。




プログラムを開発する際には、「学習者の動機付けを高めていく魅力的な活動をデザインすること」と「自ら没頭していく問いを設計すること」を大切にしており、日常生活につながりをもった活動から、教科等横断的に学ぶことを重視している。

令和2年度は、年3回のプログラム（各2日間）を実施するとともに、保護者、教職員等を対象としたオンラインセミナーを実施した。

#### 「ROCKET」とは

「Room Of Children with Kokorozashi and Extra-ordinary Talents」の頭文字をとったもの。志と豊かな才能を持つ子供たちが集まる部屋（空間）という意味。

#### 【「東大 ROCKET in 広島」プログラム】 ※いずれの回も1日目はオンライン形態、2日目は集合形態で実施

	第1回	第2回	第3回
実施日	令和2年10月29日（木） 30日（金）	令和2年12月9日（水） 10日（木）	令和3年3月2日（火） 3日（水）
テーマ	ロボット好き集まれ！ 君はロボット設計者になれるか？	げ・ゲ・毛！ 一毛からみる科学と伝統	調べろ！ 君は宮島博士になれるか？！
連携企業等	(株) マツダ ひろしま自動車産学官連携推進会議	県立西条農業高等学校 熊野筆 筆の里工房	県立広島大学宮島学センター 宮島歴史民俗資料館 厳島神社
参加者が学ぶ姿			
児童生徒の感想（抜粋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつもは見るだけで見ることができない部分を見て、体験できて、とても楽しく面白かった。</li> <li>・ 仕事への思いを聞いたことが心に残った。</li> <li>・ 考えることをやめないように生きていきたい。 など</li> </ul>		

#### 【「東大 ROCKET in 広島」オンラインセミナー】

実施日	令和3年2月13日（土） 13:30～16:00
テーマ	子供たち一人一人に適した学びの在り方やアプローチについて一緒に考えてみませんか？
内容	趣旨説明等 活動から学ぶ体験型プログラム『東大 ROCKET in 広島』等 講演 「子供たち一人一人に適した学びの場づくり」 東京大学先端科学技術研究センター 教授 中邑賢龍 対話会 中邑先生に質問！～のびのび子育て対話会～
参加者の感想（抜粋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会を生き抜いていく力を身に付けていくために大事にすべきことを、親自身が明確にしてブレないように子どもと向き合っていかなければならないと感じた。</li> <li>・ 全ての児童生徒が主体的に学ぶことができるために、リアリティや多様性を尊重することは、今の学校に求められていることだと思う。 など</li> </ul>